

會報

平成 28 年 11 月 25 日 発行

第 66 号

関東地区整形外科勤務医会

発行者：会 長 山縣 正庸

発行所：事務局 中川 照彦

〒130-8587 東京都墨田区横綱 2-1-11

同愛記念病院整形外科内

関東地区整形外科勤務医会

電話 (03) 3 6 2 5 - 6 3 8 1

FAX (03) 5 6 0 8 - 3 2 1 1

巻頭言

EBM から VBM (Value-based Medicine) への議論

千葉労災病院

山縣 正庸

この 5 月横浜で開催された JOA 総会で我が国の医療保険の問題を取り上げた教育講演がありその座長をさせていただいた。福島県立医科大学の菊地臣一理事長、昭和大学の平泉裕教授の合同教育講演でその際に菊地教授から非常に貴重なご意見を頂いた。

現状のまま何も改革がなされないと国民健康保険は間違いなく破綻する、それにはこれまでの生命至上主義の倫理観で良いのかと問いかけられた。また医師は医療について社会に責任ある発信をしてきたか？高額な医療材料は有効に使用されているか？高額の医療が社会貢献をしているとは限らないし、高額な薬品に社会への有用性を問うのは学会の使命であろう。データの蓄積が必要であり医学会の使命は非常に大きい。看過できないと。

我が国での医療は主に先人の経験から得た知識から教育され、医療の技術を学び、手術に際しても教

主要目次

1. 巻頭言	山縣 正庸	1
2. 「外来での骨・軟部腫瘍診療のポイント」	五嶋 孝博	2
3. 医療事故調査制度の実務運用ポイントと書式	井上 清成	4
4. 平成 28 年度関東地区整形外科勤務医会幹事会・常任幹事会議事録		5
5. 平成 27 年度事業報告		6
6. 平成 28 年度事業計画 (案)		7
7. 平成 27 年度収支決算書		8
8. 関東地区整形外科勤務医会常任幹事会議事録		8
9. 編集後記		10
10. お知らせ		11
11. 入会のご案内		12

育を受け自らも修練し、医療を行ってきた。あくまでの先人の経験則で行ってきた。これを科学論文の証拠、事実に基づいて医療を提供する、これまでの知識を整理し、これを人類の財産として活用しようとする動きが始まった。文献検索が電子化された年代からである。カナダの D Sackett らにより提唱され、1990年に Gordon Guyatt が evidence-based medicine EBM と名付けた。その後これまでの論文をレビューし、エビデンスレベルの高いか否か論文を評価する動きが高まった。JAMA で 1993 年～2000 年まで連載を行っていた。その結果、医学的知識が整理され、多くのガイドラインが作成され、治療指針も多く世に出て、医療に応用されて来た。この動き自体は大いに社会貢献したであろう。

しかしこれらは医師が治療の有効性から判断している。患者がその治療法にいくら払えるかの観点からは判断していない。医療が進歩するにつれて、さらに高額な薬剤、医療機器が使用され、医療費が切迫している中、さらに医療費を押し上げる。今後はこの治療にいくら払えるかで治療法が決定する仕組みが必要であろう。既に英国では NICE (英国立医療技術評価機構) が設立され医薬品をその効果に見合った価格かどうかの評価を行っている。1999 年に時のブレア首相が設立させたものだが当初は Bad NICE と言われていた、しかし、現在では決められた予算を効率よく使えるようになり非常に合理的だとされている。我が国ではその議論が始まったばかりである。2012 年に中医協費用対効果評価専門部会が設置され、治療有効性の判定法など議論されていた。また、検討対象とする高額な医薬品の決定基準が検討されていた。そして、この 4 月に費用対効果評価の試行導入について検討する品目が公表された。医薬品 7 品目、医療機器 5 品目が指定され、整形外科関連ではジャック、(外傷性軟骨欠損症が適応) があげられていた。これらは試行的導入で 2018 年以降本格的導入に向け対象品目の選定基準や評価体制など引き続き議論するとされていたが、10 月には日本初の抗がん剤オプジーボが薬価を 50% 下げられるという事態となった。当初、悪性黒色腫だけの適応であったのに肺がんにも適応が広がった。対象患者が 10 万人に増え、一人の患者が年間 3700 万円かかると言われるのでオプジーボ使用に際して支払うべき医療費が一気に総額 4 兆円にも達する可能性が出てきたためである。

さて、高額な医薬品ばかりではなく我々整形外科医が使用する各種インプラントはどうであろうか。ほぼ寝たきりの患者にさえも大腿骨頸部骨折治療としてパイポラー型の人工骨頭を選択する。外傷を治療する若手医師はモノポラーを使用することがない。価格は 1/3 と言われている。また近年の成人脊柱変形へのインストルメンテーション手術も高額化してきている。手術症例が多い施設での再手術症例が増えているという。先の菊地教授の指摘であるが、手術症例が多くなれば技術が上手くなり、費用効果が良くなるはずなのに、再手術が多く、さらに高額な医療を行っている。今後も整形外科でのインプラント使用が増え続けることは当然予想されが、費用対効果はどうであろうか。効果指標は質調整生存年 (QALY; Quality-adjusted life year) を基本としつつ疾患や医薬品、医療機器の特性などに応じてその他の指標も用いる。(QALY=QOL×生存年数、QOL については 1 を完全な健康、0 を死亡とする、QOL が 0.7 の状態で 2 年間生存すれば QALY は 1.4 と計算される。高齢者では下がるし、要介護者でも下がる) 今後多くの整形外科治療が費用対効果の評価にかかってくる可能性もある。

ヒポクラテスの誓いに「医師は自分の能力と判断に従って、患者に利すると思う治療法を選択しなければならない」とある。しかし、今後は、国民皆保険の維持は困難で、医療毎に費用を考慮しなければならなくなり、費用と効果を患者 (社会) にも選択してもらおう事になってしまう。今、直ぐに我々が行えることは、医療を行うに、費用について考慮し、可能な限り無駄をなくし、医療資源を大切に考え、経済的に効率的な医療を行う事である。しかし、一人の医師では判断不可能な個々の状況が必ずあり、また一人の医師の対策では社会全体としては微々たるものでしょう。それよりも、今後は医療経済についてより全体的に、そしてより緻密な考察が必要である。それには正しい情報と知識が必須で、医療者

側の多施設データ蓄積、社会のデータ蓄積も重要となる。医療の費用の計算法、効果の評価法についても新しい学問体系が必要と考える。

「外来での骨・軟部腫瘍診療のポイント」

がん・感染症センター都立駒込病院 整形外科・骨軟部腫瘍科

ことう 孝 博

骨・軟部腫瘍における診断とは、他臓器の腫瘍と同様に、占拠性病変の有無、病変の範囲の同定、病変の質的診断を行うことである。病変の質的診断においては、腫瘍であるか否かを判断し、腫瘍であるとするならば組織診断を推定することになる。この過程では、問診から得られる情報や身体所見に加えて単純 X 線、CT、MRI などの画像所見が重要である。骨軟部腫瘍との鑑別を要する非腫瘍性疾患には、①脆弱性骨折や疲労骨折、筋挫傷、腱損傷などの外傷、②骨髄炎や化膿性筋炎などの感染症、③SAPHO 症候群、④変形性関節症に伴う骨棘や骨嚢腫、⑤痛風結節や結節性偽痛風、異所性石灰化、骨 Paget 病などの代謝性疾患、⑥メロオストロシスなどの系統疾患、がある。これらの診断において重要なことは、非腫瘍性疾患である可能性も念頭に置くことである。一方、腫瘍である場合には、各種腫瘍の典型的臨床像や典型画像を参考に組織型を推定する。骨肉腫、内軟骨腫、非骨化性線維腫、単純性骨嚢腫などの骨腫瘍や、脂肪腫、神経鞘腫、血管腫、腱鞘巨細胞腫などの軟部腫瘍は各種画像所見からかなり正確に診断ができる。当然のことながら、画像診断を行うためには画像検査をしなければならない。画像検査を行わずに悪性腫瘍を切除すると、根治的追加治療が困難になる。画像診断で組織診断が推定されると、その後の治療方針はおのずと決まる。画像診断が良性腫瘍であった場合は、手術か経過観察、放置のいずれかとなる。悪性腫瘍が疑われる場合は生検を行うことになる。良悪性が不明の場合には生検を行うか、または注意深く経過を観察することになる。骨・軟部腫瘍は専門病院に診療を依頼することが多い。外来診療を効率的に行うには、自院で行う診療の範囲をあらかじめ決めておくのがよい。①悪性腫瘍の終末期まですべての腫瘍の診療を行うという立場、②良性腫瘍は診療するが悪性腫瘍は他院に依頼するという立場、③腫瘍は全て他院に依頼するという立場がある。基幹病院では②の立場をとることが多いと思われるが、良悪性の鑑別は難しいことがあり、生検術は知識と経験が必要である。生検を行わなくても容易に診断ができる特定の良性腫瘍(非骨化性線維腫、単純性骨嚢腫、内軟骨腫、脂肪腫、神経鞘腫、血管腫、腱鞘巨細胞腫など)に限定して治療を行うことにしておけば楽である。③の立場は、概ねうまくゆくが、注意を要する場合もある。疼痛が強い場合や病的骨折が危惧される場合は、紹介先を受診するまでに不具合が生じる恐れがあるため、紹介先にあらかじめ電話連絡をしておくのがよい。また、自院の他科で診療している癌患者の骨転移は、主治医の診療科から紹介してもらった方が順調に行く。

医療事故調査制度の実務運用ポイントと書式

— 医師法第21条「異状死体の届出」と比較しつつ —

井上法律事務所 所長 弁護士

井上清成

1 医師法第21条運用の混乱と終息

医師法第21条はかつて、「異状死」の届出と誤認され、その運用に混乱を来たしました。「異状死」と言うと、直感的に「異状死亡」と思い込んでしまいがちです。そのため、「異状死亡」の典型である「医療過誤」や、さらには「死因不詳」にまでその適用が広がってしまい、混乱してしまったのです。

しかし、もともと医師法第21条は条文の文言上で明らかなとおり、「異状死亡」ではなく、「異状死体」の届出を規定したものです。異状な死体の典型は、医療過誤でも死因不詳でもなく、「外表異状」です。外表異状のある「異状死体」を警察に届け出るのだと理解すればよいのです。そうすれば、医療過誤による死亡や死因不詳は、そのこと自体では届出の対象でないことが容易に納得がいくことでしょう。

2 医療事故の法的な定義

医師法第21条と同様な誤解と混乱は、医療事故調査制度に言う「医療事故」の定義においても生じかねません。今までは、「医療過誤」があれば直ちに「医療事故」であると思われて来ましたし、それが言わば常識でした。

しかし、医療法による「医療事故」の定義は、あくまでも「予期しなかった死亡」と「医療に起因した死亡」の2つの要件を満たすものとされました。「医療過誤」であるかどうかとは関係ありません。もちろん、「医療過誤」の中には「医療事故」もあるでしょう。しかし、「医療過誤」であっても「医療事故」でないものもあるのです。典型的には、術中死も十分にありうるような危険な外科手術において、たまたま「医療過誤」のために死亡したとするならば、「予期していた死亡」として「医療事故」にはならなくなるのです。なお、この逆も同様に考えます。厚労省検討会の取りまとめでも、この点が確認されており、「過誤の有無は問わない」と明示されました。

3 全死亡症例の一元的チェック

もともと医療事故調査制度においては、院内の医療安全管理の向上のために、「すべての死亡症例の管理者の下での一元的チェック」を各医療機関ごとに自主的に進めることが推奨されていました。そして今般、(6月4日の講演後のことですが、)6月24日には厚労省令(医療法施行規則)が改正され、このような体制を整備することが法的に義務付けられたのです。

あえて極論すれば、「医療事故」に当たるかどうかは、さほど重要な事柄ではありません。重要なことは、すべての死亡症例を院内でチェック(時には精密に検証)して、院内の医療安全を向上させていくことです。これこそが、すべての国民の願いなのです。

平成 28 年度関東地区整形外科勤務医会幹事

・常任幹事会議議事録

出席者

山縣正庸、江畑功、落合直之、下出真法、星川吉光、楠瀬浩一、土屋正光、三上容司、別府保男、佐々木孝、小柳貴裕、梅山剛成、亀山真、鎌田修博、鈴木信正、穂積高弘、井上元保、安竹重幸、黒木啓文、河内敏行、松田達男、飛松好子、田中利和、有馬亨、早稲田明生、進藤重雄、小森博達、河野亨、大江隆史、中川照彦、原田繁、三笠元彦、眞塩清、秋山典彦、杉山肇、岩瀬嘉志、浦部忠久、堀内行雄、村松俊樹、山崎隆志、勝又壮一、岡崎裕司

4 2 名出席 (敬称略、順不同)

日時：平成 28 年 6 月 4 日 (土曜日)

場所：A P 東京八重洲通

報告事項

1 理事会報告

山縣会長より報告。三上先生から専門医研修、大江先生よりロコモについて補足。

2 ホームページについて

江畑先生より 2 回更新、教育研修、役員の交替など報告。

3 会報について

江畑先生より会報は 2 回発行、研修会案内記載、幹事の先生方へは 2～3 部送付との報告。

4 新常任幹事

小柳貴啓先生 (川崎私立川崎病院整形外科部長)

岩瀬嘉志先生 (順天堂東京江東高齢者医療センター整形外科科長・准教授)

田中利和先生 (キッコーマン総合病院副院長・整形外科部長)

亀山 真先生 (東京都済生会中央病院)

早稲田明夫先生 (荻窪病院)

梅山剛成先生 (NTT 東日本関東病院)

大江隆史先生 (NTT 東日本関東病院)

新幹事

児玉隆夫先生 (埼玉メディカルセンター副院長)

井上元保先生 (伊勢原協同病院 副院長)

以上 9 名の先生が推薦され内定した。

本日の総会にて承認予定。

審議事項

- 平成 27 年度事業報告・平成 28 年度事業予定案
- 平成 27 年度収支決算書、平成 28 年度予算 27 年度研修会費 (6 月分は 26 年度の 5 月支出のため本来の半額となっている) 土屋先生より会計監査報告。収入として広告費、会員数増による会費増検討。幹事・常任幹事会として承認。
- 本日の総会の議長・副議長選出
議長 九段坂病院 進藤重雄先生
副議長 キッコーマン病院 田中利和先生
- 次回教育研修会の演者 2 名の人選
平成 27 年 12 月 17 日 (土曜日) 16:00～18:00
演者・演題の選定について
教育委員長の村松俊樹先生および委員の鎌田修博先生、穂積高弘先生、田中利和先生に選定をお願いする。
- 監事の交代
秋山典彦先生から原田 繁先生に
- 来年度日程予定
第 64 回関東地区整形外科勤務医会研修会
平成 29 年度 6 月 10 日 (土)
A P 東京八重洲通り

平成 28 年度関東地区整形外科勤務医会総会議事録

日時：平成 28 年 6 月 4 日(土曜日)

場所：A P 東京八重洲通

議長 九段坂病院 進藤重雄先生
副議長 キッコーマン病院 田中利和先生
定数報告 出席 101 名、委任状 128 名、
合計 229 名、会員数 424 名に対し定足 1/10
以上で総会は成立した。
会員数 424 名(入会 26 名、退会 7 名)

決議事項

- 平成 27 年度事業報告・平成 28 年度事業予定案報告
平成 27 年度事業報告・平成 28 年度事業予定案ともに承認された
平成 28 年度研修会予定

第 62 回 教育研修会 平成 28 年 6 月 4 日

【演題 1】 座長 穂積高弘先生

演者：五嶋孝博先生
がん・感染症センター都立駒込病院 整形外科・骨軟部腫瘍科部長

演題名：外来での骨・軟部腫瘍診療のポイント

【演題 2】 座長 山縣正庸先生

演者：井上清成先生弁護士、井上法律事務所 所長

演題名：医療事故調査制度の実務運用ポイントと書式 一医師法第 21 条「異状死体の届出」と比較しつつ

第 63 回 教育研修会 平成 28 年 12 月 17 日

【演題 1】 座長 メディカルスクヤニング東京 鈴木信正先生

演者：大阪南医療センター免疫疾患センター 橋本淳先生

演題名：「百歳まで骨折なしでいけますよ」

【演題 2】 座長 横浜労災病院 三上容司先生

演者：三井記念病院 星地亜都司先生
演題名：頸椎症頸椎ヘルニアをどう診るか

- 平成 27 年度収支決算報告・平成 28 年度予算案報告

決算報告平成 27 年度収支決算報告・平成 28 年度予算案ともに承認された。

- 新常任幹事に以下の 7 名の先生が承認された

小柳貴啓先生(川崎私立川崎病院整形外科部長)

岩瀬嘉志先生(順天堂東京江東高齢者医療センター整形外科科長・准教授)

田中利和先生(キッコーマン総合病院副院長・整形外科部長)

亀山 真先生(東京都済生会中央病院)

早稲田明夫先生(荻窪病院)

梅山剛成先生(NTT 東日本関東病院)

大江隆史先生(NTT 東日本関東病院)

- 新幹事に以下に 2 名の先生が承認された

児玉隆夫先生(埼玉メディカルセンター 副院長)

井上元保先生(伊勢原協同病院 副院長)
総会にて承認。

- その他

監事の交代

秋山典彦先生から原田 繁先生に交代

文責 中川照彦

平成 27 年度事業報告

平成 27 年 6 月 1 日～平成 28 年 5 月 31 日

会報発行	2 回	
総会	1 回	平成 27 年 6 月 6 日
幹事会	2 回	平成 27 年 6 月 6 日、 同年 12 月 12 日
常任幹事会	4 回	平成 27 年 6 月 6 日、 同年 10 月 5 日、同年 12 月 12 日、平成 28 年 3 月 14 日
教育研修会	2 回	平成 27 年 6 月 6 日、

同年 12 月 12 日

第 60 回 教育研修会 平成 27 年 6 月 6 日

【演題 1】 座長 山縣正庸先生

演者：千葉県こども病院

整形外科 西須 孝先生

演題名：整形外科的治療が骨成長に与える影響

【演題 2】 座長 泉田良一先生

公益財団法人日本生産性本部公共政策部長、

日本創成会議事務局総括 澤田 潤一氏

演題名：地方消滅～東京一極集中が招く人口急減

第 61 回 教育研修会 平成 27 年 12 月 12 日

テーマ：骨形成の促進

【演題 1】 座長 村松俊樹先生

演者：新倉隆宏先生 神戸大学医学部附属病院 特命講師

演題名：これまでとこれからの骨折治療促進法

【演題 2】 座長 村松俊樹先生

演者：吉岡友和先生 筑波大学医学医療系整形外科 運動器再生医療学寄付講座 准教授

演題名：濃縮自家骨髄血移植術による骨形成促進

全国整形外科保険審査委員会委員会議

平成 27 年 9 月 13 日

日整会骨と関節の日電話相談室

平成 27 年 10 月 8 日

午前 飛松好子先生 篠崎哲也先生

午後 鎌田修博先生 山崎隆志先生

日本整形外科勤務医会総会 平成 28 年 5 月 11 日
外保連総会、実務委員会、手術委員会、検査委員会、処置委員会

内保連

日整会社会保険委員会

平成 28 年度事業計画 (案)

平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日

会報発行 2 回

総会 1 回 平成 28 年 6 月 4 日

幹事会 2 回 平成 28 年 6 月 4 日、
同年 12 月 17 日

常任幹事会 4 回 平成 28 年 6 月 4 日、
同年 10 月 3 日、
同年 12 月 17 日、
平成 29 年 3 月

教育研修会 2 回 平成 28 年 6 月 4 日、
同年 12 月 17 日

第 62 回 教育研修会 平成 28 年 6 月 4 日

【演題 1】 座長 穂積高弘先生

演者：五嶋孝博先生 がん・感染症センター
都立駒込病院 整形外科・骨軟部腫瘍
科部長

演題名：外来での骨・軟部腫瘍診療のポイント

【演題 2】 座長 山縣正庸先生

演者：井上清成先生 弁護士、井上法律事務所
所長

演題名：医療事故調査制度の実務運用ポイントと書式 —医師法第 21 条「異状死体の届出」と比較しつつ—

第 63 回 教育研修会 平成 28 年 12 月 17 日

【演題 1】 座長 メディカルスキャニング
東京 鈴木信正先生

演者：大阪南医療センター免疫疾患センター
橋本淳先生

演題名：「百歳まで骨折なしでいけますよ」

【演題 2】 座長 横浜労災病院 三上容司
先生

演者：三井記念病院 星地亜都司先生

演題名：頸椎症頸椎ヘルニアをどう診るか

全国整形外科保険審査委員会委員会議

平成 28 年 9 月 11 日 (日)

日整会 骨と関節の日電話相談室

平成 28 年 10 月 8 日 午前 2 名 午後 2 名

日本整形外科勤務医会総会

平成 29 年 5 月 17 日

日整会総会シンポジウム

外保連総会、実務委員会、手術委員会、検査委員会、処置委員会

関東地区整形外科勤務医会 常任幹事会議事録

平成27年度 収支決算書

平成27年6月1日～平成28年5月31日

日時：平成28年10月3日
月曜日 19時～20時20分
場所：A P 東京八重洲通

〔収入の部〕

[単位：円、予算に対して収入減：▼]

項目	予算額	決算額	増減	付記
前年度繰越金	6,916,820	6,916,820	0	
会費	1,200,000	976,000	224,000	
利子	2,000	825	1,175	
研修会費	200,000	131,000	69,000	
広告費	200,000	0	200,000	
幹事会費	200,000	122,000	78,000	
合計	8,718,820	8,146,645	572,175	

出席者 35名 (敬称略、順不同)

浦部忠久、木村雅史、佐藤浩一、平野篤、三笠元彦、浅野 聡、佐々木孝、小柳貴裕、田中利和、大江隆史、進藤重雄、小森博達、村松俊樹、土屋正光、泉田良一、松田達男、岡崎裕司、原田 繁、真塩 清、杉山 肇、中川照彦、別府保男、山縣正庸、三上容司、岩瀬嘉志、河野亨、早稲田明生、梅山剛成、楠瀬浩一、篠崎哲也、江畑 功、亀山 真、穂積高弘、勝又壮一、三原久範

〔支出の部〕

[単位：円、予算に対して支出増：△]

項目	予算額	決算額	増減	付記
幹事会費	200,000	309,288	-109288	
総会研修会費	520,000	333,286	186714	
会報	50,000	122,040	-72040	
会員名簿	0	0	0	
日本整形外科勤務医会費	600,000	448,000	152000	
通信費	110,000	200,154	-90154	
事務人件費	100,000	100,000	0	
HP 運営費	200,000	171,180	28820	
雑費	60,000	50,432	9568	
小計	1,640,000	1,734,380	-94380	
次年度繰越金	7,078,820	6,412,265	666,555	
合計	8,718,820	8,146,645	572,175	

議題

【報告事項】

1 理事会報告

山縣正庸先生より

2019年学術総会会長選挙

第92回学術集会J O A総会(横浜)

札幌医大 山下先生

第34回基礎学術総会福島医大 近藤先生

第52回骨軟部腫瘍埼玉医大 矢沢先生

学会開催地 仙台⇒神戸⇒横浜⇒福岡⇒東京

再来年新潟大遠藤先生が神戸にて開催

2019年山下先生が横浜で開催

「日整会ニュース」にて過去14分野の共通

単位案内

新旧単位取得と更新案内

第91回シンポジウムにて東京オリンピック、パラリンピック関連を取り上げる

10月4日骨と関節の日電話相談は来年度から中止

専門医制度プログラム

学校保健検診

2 関東地区整形外科勤務医会(第63回教育研修会)

村松俊樹先生より

平成28年12月17日(土) 16:00~18:00

AP東京八重洲通

講演1 座長 鈴木信正先生

演者: 橋本淳先生

演者所属: 独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター 免疫疾患センター部長

演題名: 「100歳まで骨折なしでいけますよ」といえるために知っているべきこと

日整会専門医資格継続単位: 【4】代謝性骨疾患

【11】骨盤・股関節疾患

【Re】運動器リハビリ医単位

講演2 座長 三上容司先生

演者: 星地亜都司先生

演者所属: 三井記念病院整形外科部長

演題名: 頸椎症、頸椎ヘルニアをどう診るか

日整会専門医資格継続単位: 【7】脊椎・脊髄疾患

【8】神経・筋疾患

(末梢神経麻痺を含む)

【SS】脊椎脊髄病

3 来年の関東地区整形外科勤務医会 幹事・常任幹事会、総会、第64回教育研修会の日時、場所

平成29年6月10日(土)

AP東京八重洲通

14:30~15:20 幹事・常任幹事会

15:30~15:50 総会

15:50~16:00 商品説明

16:00~18:00 第64回教育研修会

18:00~ 情報交換会

4 ホームページ・会報

江畑 功先生より

ホームページ、教育研修会に合わせて変更しておりプログラムが出来た段階で早期に更新会報、前回6月の研修会に合わせ5月に配布。

常に研修会の約1月前に出す予定。

5 外保連関係

6 内保連関係

【審議事項】

1 常任幹事の選出に関して

平泉 裕 先生(品川志匠会病院・昭和大学整形外科客員教授)

山縣先生より推薦され内定した。

伊室 貴 先生(厚木市立病院整形外科部長) 勝又先生より推薦され内定した。

清水 健太郎先生(佐野厚生総合病院 副院長) 浦部先生より推薦され内定した。

2 第64回教育研修会(平成29年6月10日土曜日)の演者の選定

村松俊樹先生より

演者推薦は前回までの演者より選定中。

3 日整会理事・代議員・補欠代議員の選考

代議員の定員1名増加 11名 → 12名

補欠代議員は1名のまま

代議員立候補者

三上容司先生 日本整形外科勤務医会会
(横浜労災病院)

鎌田修博先生 日本整形外科勤務医会事務局
(けいゆう病院)

山縣正庸先生 関東地区整形外科勤務医会会長
(千葉労災病院)

浅野 聡先生 埼玉県(東埼玉総合病院)

篠崎哲也先生 群馬県(真木病院)

平野 篤先生 茨城県(水戸協同病院)

清水健太郎先生 栃木県(佐野厚生病院)

飛松好子先生 女性枠 (国立障害者リハビリテーションセンター)

松田達男先生 (JCHO 東京新宿メディカルセンター)

杉山 肇先生(神奈川県リハビリテーション病院) 東京都整形外科勤務医会枠の医師1名 (楠瀬浩一先生と交代)

中川照彦 関東地区整形外科勤務医会事
務局 (同愛記念病院)

以上 12 名

補欠代議員候補者

江畑 功先生 関東地区整形外科勤務医会事
務局 (横須賀共済病院)

以上 1 名

文責 中川照彦

~~~~~ 事務局から ~~~~~

前回の会報発行以後、「急に変わる」ことが世の中で多かったように思います。東京都知事が急に交代になったと思ったら、築地市場の豊洲移転に関わる問題が明らかとなり、東京オリンピックの会場見直しなど、予定が大幅に変更になっています。新専門医制度に関しても、今年度スタートするのか最後まで激論がかわされていたようです。結局今年度は見送る、といった学会もあり、まだどの科に進むか決めかねていた研修医は、余計に迷ってしまったようです。

今年度は新制度でのスタートをしないと決めた科の先生からは、「整形外科はきちんと準備していたんですね」と声をかけられますが、かなり前から準備にあたられた先生方に対するお褒めの言葉と私は受け取っています。しかしながら、今年度末に専門医資格期間が終了する先生方 (私もそうですが) にとっては、従来の制度にするか新制度に移行するかまだ迷ってしまうのではないのでしょうか。今後の動向を注意深くみていく必要がありそうです。

6月の総会・研修会では聴講者が100名を超え、立ち見が出るほどの大盛況となりましたが、これは嬉しい「変化」だと思います。興味深い演題を選んでいただいたことももちろんですが、勤務医会に参加して活動をしていく先生が徐々に増えているという実感もあります。来る12月の研修会には、ぜひ若手の先生方にも声をかけていただき、さらに盛況になることを期待したいと思います。

文責 江畑 功

お知らせ

第63回 日整会認定教育研修会の御案内

関東地区整形外科勤務医会では、下記のごとく幹事会及び教育研修会を開催いたします。なお、研修会の出席予約は要りません。専門医以外の先生方もお誘いの上、ご参加下さい。会終了後、懇親会も予定しております。

記

日 時：平成28年12月17日（土） 開始時間は下記ご参照ください。

会 場：AP東京駅八重洲通り 7F

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目10-7号

TEL 03-6228-8109（当日連絡先）

幹事・会常任幹事会：15:00～15:45

情報提供『医療用貼付剤・テープ剤』帝國製薬（株）製品情報室

演題Ⅰ 座長：メディカルスキニング東京

脊柱側弯症センター長 鈴木信正先生

結果を出せる骨粗鬆症治療の考え方

— 「百歳まで骨折なしでいけますよ」

といえるために知っておくべきこと — [4][11]Re

演者：国立病院機構 大阪南医療センター

免疫疾患センター 部長 橋本 淳先生

演題Ⅱ 座長：横浜労災病院 副院長 三上容司先生

「頸椎症頸椎ヘルニアをどう診るか」 [7][8]SS

演者：三井記念病院

副院長・整形外科部長 星地亜都司先生

受講料：1題 ¥1,000—（単位取得者のみ）

懇親会：会終了後、情報交換の場を設けております。

共 催：関東地区整形外科勤務医会
帝國製薬株式会社

※ 右の地図をご参照ください。



駐車場がございませんので、公共交通機関のご利用をよろしくお願いたします。

入 会 申 込 書

平成 年 月 日

(フリガナ)
御 氏 名

生 年 月 日

(大正・昭和) _____ 年 月 日

現 住 所

〒 _____

TEL _____

勤務先名称

勤務先住所

〒 _____

TEL _____

FAX _____

e-メール _____

役 職 名

出 身 大 学

卒 業 年 度

出 身 教 室

入会申込み送り先

〒130-8587 東京都墨田区横網2-1-11
同愛記念病院整形外科
関東地区整形外科勤務医会
事務局代表 中川 照彦
TEL 03-3625-6381
FAX 03-5608-3211